

内湖に係る取組の現状等について

1. 内湖再生全体ビジョン

内湖は古来、暮らしの中で利用されることで環境が維持され、琵琶湖固有の動植物、特にコイ科魚類を中心とした在来魚の産卵や仔稚魚の成育の場として重要な役割を果たしてきた。しかし、これまでに、内湖は暮らしの中で遠い存在になると同時に、干拓をはじめ様々な開発により、多様な機能を持つ多くの内湖が失われている。

内湖再生全体ビジョンは、改めて内湖の機能や価値を見出すことを出発点とし、内湖と琵琶湖の豊かな生態系を回復するとともに、内湖・琵琶湖と人とのより良い関係を築くための道筋を示すものとして、平成 25 年 3 月に策定した。

【内湖再生の基本理念】

「内湖の価値を再発見し、その本来の機能を再生し、琵琶湖や人とのつながりをつくる内湖づくり」

【内湖再生の基本方針】

内湖の有する以下の三つの価値を重視し、その機能の再生を進めることを、内湖再生の基本方針としている。

- 自然環境・生態系としての価値：生態系を育む機能
- 琵琶湖と集水域の 緩衝地帯としての価値：流入負荷を緩和・浄化するなどの機能
- 人の暮らしを支える価値：生業や憩い、環境学習など人が利活用できる空間としての機能

【内湖再生に向けた課題】

- ・ 地域特性を踏まえた価値の再発見
- ・ 財源の確保
- ・ 制度上・技術上の課題
- ・ 持続的な取組の仕組み



図. 内湖再生に向けた取組イメージ（内湖再生全体ビジョンより）

2. 内湖における取組事例

(1) 早崎内湖

平成 13 年度から試験湛水による調査を開始。

平成 25 年度に用地買収し、本格的に内湖への再生工事を開始している。

再生のイメージは、丁野木川の北側区域は、なるべく人の手を加えず、魚介類の産卵、生育の場となるよう自然環境を保全する。南側区域は、内湖と人々との関係を再構築し活用する場とする。

なお、事業の財源として、環境省の自然環境整備事業費を得て実施している。

[自然環境・生態系としての価値を高める取組]

- ・築堤工事（H26～ 琵琶湖環境部琵琶湖政策課）

再生後の内湖の水位と琵琶湖水位とを自然に連動させるため、外周堤防を建設する。現在、丁野木川の北側区域について工事を進めている。

- ・ニゴロブナの種苗放流や魚類相調査（H14～ 水産試験場）

早崎内湖の魚類の産卵繁殖場としての活用を検討するため調査を実施。

[人の暮らしを支える価値を高める取組]

- ・地域主体型環境調査（H26～ 琵琶湖環境部琵琶湖政策課）

地域住民や環境団体、関係機関等からなる「早崎内湖再生保全協議会」が主体となった環境調査や観察会等を支援。

調査等の実施に当たり、小学生や一般の方の参加も募り、早崎内湖の価値の発信をあわせて実施している。



図. 観察会の様子

※北側区域の湛水池の現状

近年、ハスが大量繁茂し、水質悪化など魚介類の生息環境への影響や、水鳥が水面から飛び立つ際に障害物となるなどが懸念されている。今後、本事業の順応的管理を進める中で、魚介類の繁殖・生育の場に適した形状への整備を進める予定。

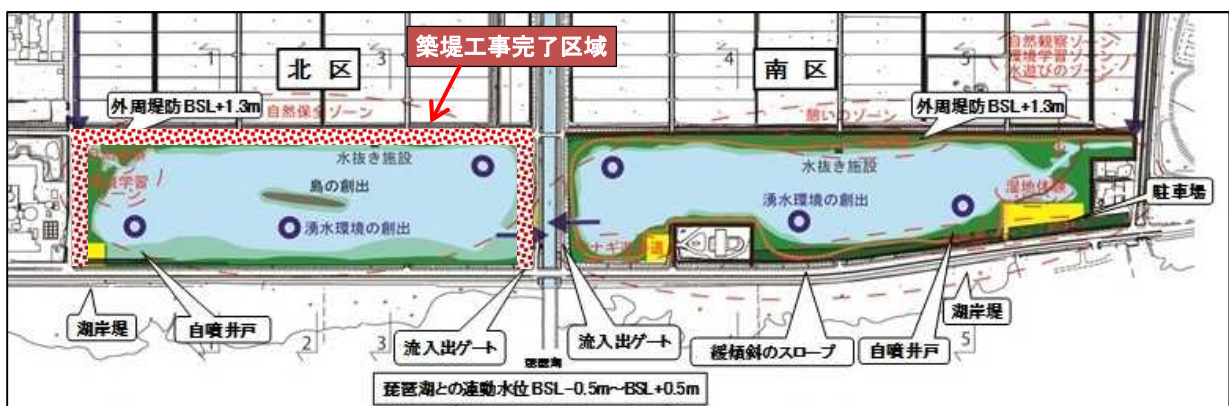


図. 早崎内湖再生のゾーニングイメージ

(2) 西の湖

[自然環境・生態系としての価値を高める取組]

- ・ヨシの刈取り等、清掃等の実施（琵琶湖環境部琵琶湖政策課（伊藤園寄付金事業）、民間活動）

H29 実績：ボランティア活動支援※¹（0.3ha）、県実施（0.8ha）、民間実施※²（1.8ha）

※1 助成上限（ヨシ刈取り 50,000 円）※2 ヨシ条例に基づく届出等により把握（事業量は申請段階）

- ・ヨシ群落内のヤナギ伐採（H4～ 琵琶湖環境部琵琶湖政策課）
- ・ホテイアオイ除去、湖底耕うん等（H18～ 農政水産部水産課）
- ・外来魚の集中駆除（H24～ 農政水産部水産課）
- ・ホンモロコ産卵親魚の産卵河川での採捕規制（H29～ 農政水産部水産課）

4 月 1 日～5 月 31 日 山本川でのホンモロコを含む水産動物の採捕禁止

※滋賀県内水面漁場管理委員会指示

- ・ホンモロコ、ニゴロブナ等の水田を活用した種苗放流（農政水産部水産課）

※ホンモロコ（H24～）、ニゴロブナ（H16 頃～）

[緩衝地帯としての価値を高める取組]

- ・湾奥部における底泥浚渫（H6～H30 東近江土木事務所）
- ・植生浄化、循環かんがい（H6～ 東近江農業農村振興事務所）

小中之湖地区での水質保全対策事業。平成 18 年度に水質保全池が完成し、現在、土地改良区が保全池の維持管理をおこなっている。

[人の暮らしを支える価値を高める取組]

- （再）・ボランティアによるヨシ刈取り、普及啓発活動

（琵琶湖環境部琵琶湖政策課（伊藤園寄付金事業）支援、民間実施）

H29 実績：支援※¹（2 団体）、民間実施※²（2 団体）

※1 助成上限（ヨシ刈取り 50,000 円、普及啓発 150,000 円の助成）

※2 ヨシ条例に基づく届出等により把握



図. 西の湖での取組状況

(3) 伊庭内湖

[自然環境・生態系としての価値を高める取組]

- ・ヨシの刈取り、清掃等の実施（琵琶湖環境部琵琶湖政策課（伊藤園寄付金事業）、民間活動）

H29 実績：県実施（1.1ha）、民間実施※（1.1ha）

※ ヨシ条例に基づく届出等により把握（事業量は申請段階）

- ・ホテイアオイの除去等（H21～ 農政水産部水産課）
- ・内湖での産卵期の1ヶ月禁漁（H24～H27 農政水産部水産課）
- ・ホンモロコ産卵親魚の産卵河川での採捕規制（H29～ 農政水産部水産課）

4月1日～5月31日 瓜生川、鉢光寺川でのホンモロコを含む水産動物の採捕禁止

※滋賀県内水面漁場管理委員会指示

- ・ホンモロコ、ニゴロブナ等の水田を活用した種苗放流（H24～ 農政水産部水産課）

[人の暮らしを支える価値を高める取組]

（再）・ボランティアによるヨシ刈取り

H29 実績：民間実施※（2団体）

※ ヨシ条例に基づく届出等により把握



図. 伊庭内湖での取組状況

(4) 堅田内湖

[自然環境・生態系としての価値を高める取組]

- ・堆積物除去などの清掃、水草除去活動の実施（農政水産部水産課）

堅田漁協の漁業者を中心とする活動組織の取組を支援。

※その他、内湖での取組

乙女が池、貫川内湖、野田沼において、餌料環境、水質調査およびニゴロブナ、ホンモロコの稚魚を放流し、西の湖との比較により、コイ科魚類の産卵繁殖場としての評価を行っている。また曾根沼では、平成 13 年より積極的な外来魚駆除を行い、その後の在来魚のモニタリングをしており、在来魚の増加を確認。（水産試験場）

3. つながり再生プロジェクト

身近な水環境である内湖について、地域住民等が集まり、課題を共有し、地域とのつながり再生に向けたプラン策定を進めるため、公募により募集、選定した 3 地域（家棟川、平湖・柳平湖、松ノ木内湖）について、平成 25 年度および平成 26 年度に支援した。

本事業により支援した 3 地域の状況は、次のとおりである。

（1）家棟川

①課題と主な議論

家棟川最下流部に、かつて野田沼内湖が存在し、周辺住民の日常生活に密着していたが、埋立てにより消失している。現在は、家棟川河川水は、そのまま琵琶湖へ流入していることから、「家棟川河口部にビオトープを含めた内湖の再生をしたい。」として議論を開始。

「家棟川河口部および琵琶湖岸のヘドロ化」などの問題点、および「生活スタイルの変化により、人のかかわりが遠のいた」等の課題や、より多くの地元の人の理解やかかわりを広める必要性が議論された。

②取組状況

この議論の結果、家棟川でかつて見られたビワマスの遡上が、現在は見られないことに対し、住民、NPO、企業、行政、研究者等が集まり、「家棟川・童子川・中ノ池川にビワマスを戻すプロジェクト」を協働で実施することとなった。

（主な活動）

- ・ビワマスの産卵床造成、魚道の設置
 - ・清掃活動
 - ・観光船を用いた環境学習
- （H27～ プロジェクト構成メンバー）



図. 産卵床造成の様子
（産卵床でビワマス稚魚確認（H28, H29））



図. 魚道を遡上するビワマス（H30. 11. 9）

(2) 平湖・柳平湖

①課題と主な議論

かつては在来魚も豊かに生息し、在来魚釣り等が生活の一部となっていたが、人為的な改変により従来の姿は残っていない。あわせて、生活スタイルの変化などにより、地域住民と内湖とのかかわりが遠のいてしまったことから、「利活用につながる取組を行っていききたい。」として議論を開始。

「水質悪化や外来魚の増加、在来魚の減少、ゴミの流入」などの問題点、および「少子化や若者の減少、利活用の仕方が不明確等」により地元での取組、利活用が難しくなった等の課題が議論された。

また、地域の住民、農業者がゆりかご水田を行っているが、琵琶湖とのつながりが無い、との課題が認識された。

②取組状況

水環境の改善のため、底泥浚渫や植生工、導水工を実施。また、魚道を設置。

(H12～H29 南部土木事務所)

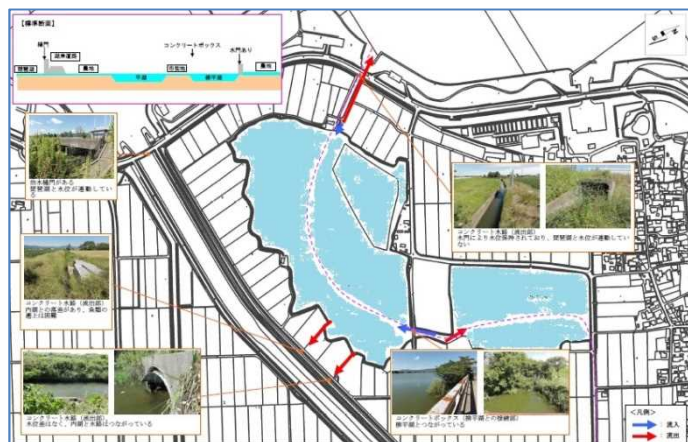


図. 平湖、柳平湖

(3) 松ノ木内湖

①課題と主な議論

固有・特有の豊かな自然が残る松ノ木内湖では、地域でヤナギの伐採や、ヨシ刈り等の管理が行われているが、泥がたまり、水深が0.2～2.0m程度に浅くなっている。さらに、生活スタイルの変化により、地域住民が内湖の幸を求めなくなり、地域で内湖を守るのが難しくなった、との問題意識から議論を開始。

「土砂の堆積・陸地化や、ゴミ等の流入」などの問題点、および「関心のある者の高齢化、若者の参加が少ないこと、資金面の問題」等の課題が議論された。

②取組状況

- ・ヨシの刈取り

(琵琶湖環境部琵琶湖政策課(伊藤園寄付金事業))

H29実績: 支援※(1団体)

※ 助成上限(ヨシ刈取り 50,000円)



図. 松ノ木内湖

4. 下物ビオトープ

南湖におけるビオトープ拠点として、琵琶湖・堤脚水路とつながる4つの池からなる下物ビオトープに、ヨシやハスの観察、魚つかみ等の自然と触れ合う場を整備するとともに、周辺施設との連携による烏丸半島の活性化を図り、水辺のにぎわいを創出する。

(取組状況)

- ・ビオトープ整備工事 (H30 琵琶湖環境部琵琶湖政策課)
- ・ビオトープ観察会 (H29～ 琵琶湖環境部琵琶湖政策課)

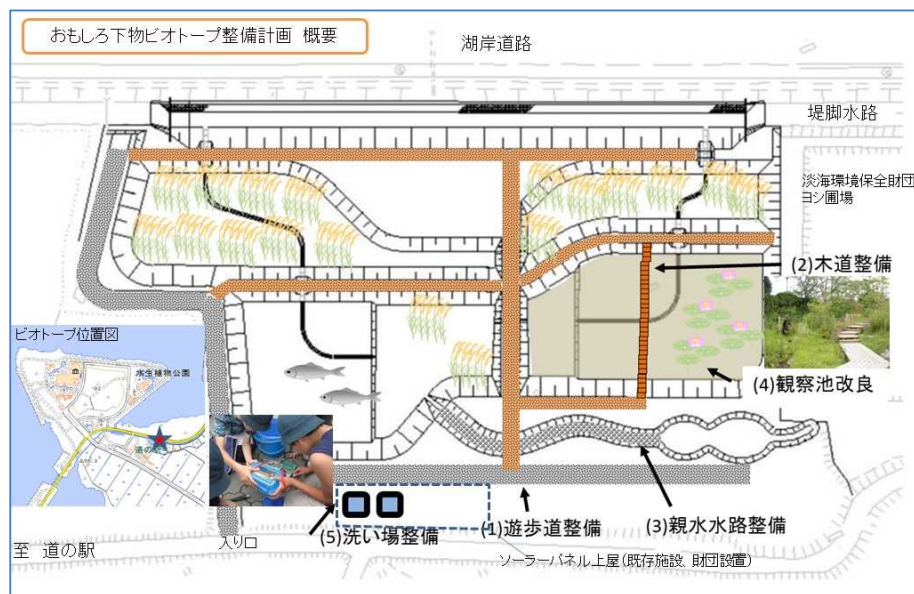


図. 下物ビオトープのイメージ

5. 今後の方針

今後も地域住民をはじめとする県民、NPO、関係機関等とともに、内湖の価値を地域の資源として活用できるよう、保全再生に取り組んでいく。

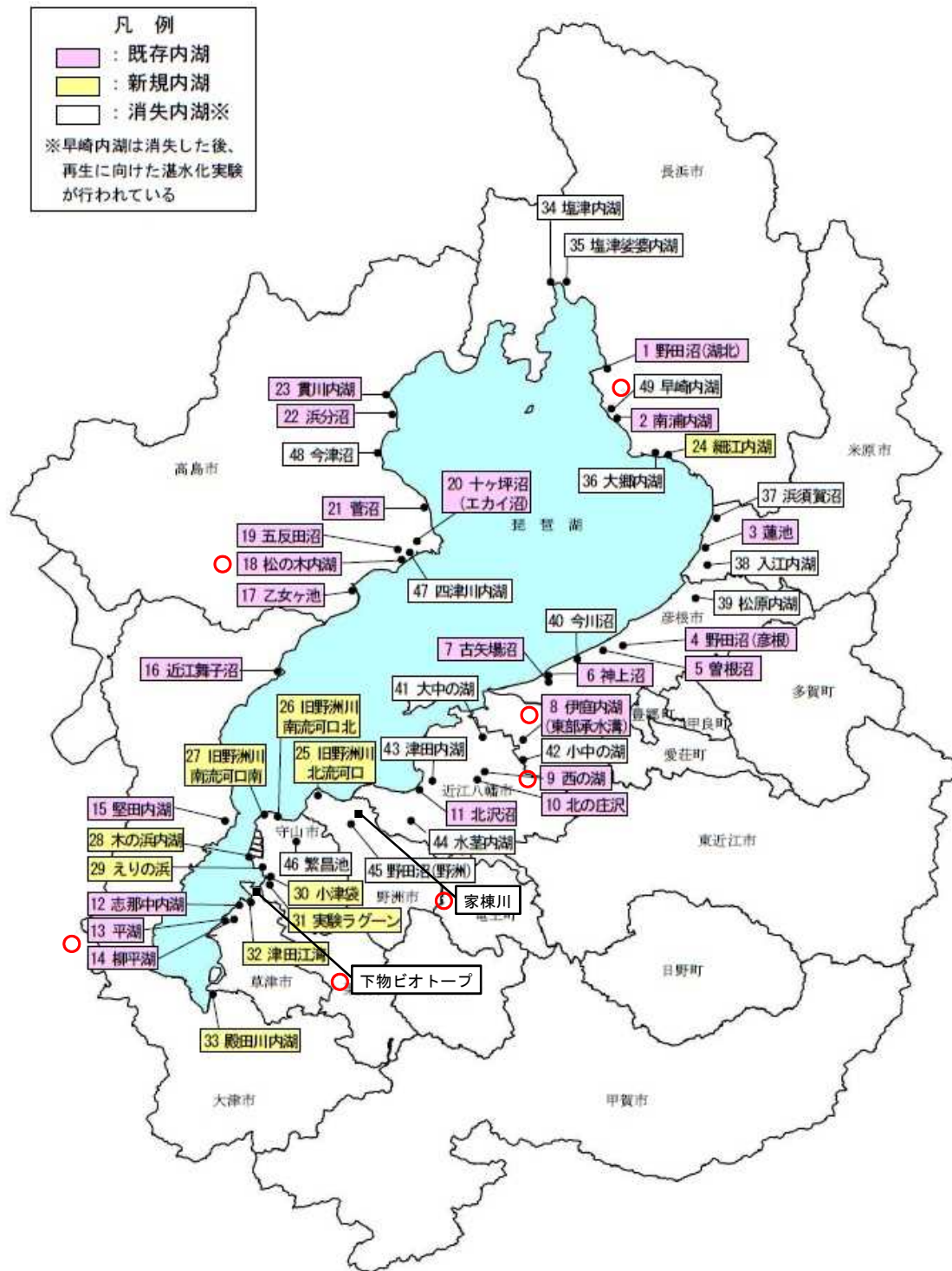


図. 琵琶湖周辺の主な内湖（内湖再生全体ビジョンより作成）

既存内湖：現存している内湖

新規内湖：新たに琵琶湖が締め切られ、もとの湖岸との間に残った水域

消失内湖：干拓等により失われたもの